

春の小川の夢

春の小川プロジェクト会長

川口 彰五郎

「春の小川」の歌詞は、大正元年に文学者の高野辰之が娘を連れて散歩していた、現在の代々木公園下を流れる河骨川の畔の情景を詠んだものです。今では、昔の面影はすっかり消え、小さな「春の小川」の碑がぽつんと在るばかりになりました。この歌詞の発祥の地が、私が生まれ育った所のすぐ近くにあることが判ったのは10年ほど前でした。まさかこんなに近くに原点があったなんて知りませんでした。

今の日本は、都市はもちろんのこと、農村部でも自然に遊べる小川は非常に少なくなり、子どもの頃遊んだ奥入瀬川や沼、林は遊べるところではなくなってしまいました。70才を過ぎた今、昔遊んだ自然を思い出して、子孫のため、地域の環境保全のために、春の小川の情景を再現させたいという想いが年々募ってきました。

高度経済成長時代、自然を無視して人間だけの安全のための間違った考えが自然の河川を巨大な排水路に変え、小川は都市では暗渠や下水道となってしまう、農村部では単なる用排水路となってしまう。

子どもたちは、自然の中で遊ばなくなり、テレビやゲーム、パソコンなど部屋の中に閉じこもりがちです。自然はおろか人間関係も疎くなり将来に不安を感じさせる子どもが増えています。

自然は正直で嘘をつきません。将来を託すべき子どもたちに、人類を育ててくれている自然の有り難さ・美しさ・楽しさ・厳しさ…を伝えていなくてはなりません。

そこで私の人生最後の夢の仕事は、今残っている自然を守り修復して、春の小川の情景を再現することです。太平洋から奥入瀬川流域を遡り、十和田湖までつながる散策路をつくることです。

トイレ・休憩所・茶店などを設けた自然観察のできるルートをたくさん作り、障害者、幼児からお年寄りまで安心安全に利用できることに配慮し、生涯学習の場にも活用できるようにすることです。

自然を身近に感じ、自然と共に暮らしていくことを目標に、ここから世界へと発信していきたいのです。

もちろん、私一人では到底できることはありません。大勢の人々の協力なくしては不可能です。

ふるさとを愛する皆さん、春の小川の夢を共に実現しようではありませんか！

次世代を担う子どもたちに、ゴミを残さずに美しい自然を遺しましょう！

よろしくご協力をお願いいたします。

(カワヨ牧場50周年記念誌に掲載されたものを編集部で要約したものです)

役員紹介

会長 ・川口彰五郎
副会長 ・松林清栄 ・鈴木泰文
幹事 ・川口元 ・杉本健
・武田裕子 ・津曲隆信
会計監事 ・山内一夫 ・築田美津子
事務局 ・松林由範・小笠原牧子・堤和子

♪どうぞよろしくお願ひします♪

湯の島カタクリ祭り各自で参加を♪

【期間】 4月4日(土)～4月26日(日)まで

【場所】 浅虫「湯の島」

【料金】 1人、往復1,000円(保険料含)

【詳細】 午前9時～午後3時まで船が出ています。

※乗船場所＝海水浴場駐車場側船着場片道5分。(荒天時欠航)

♪皆様のご都合のいい日に、行ってみませんか？